



日本システムバンク株式会社 社長 野坂信嘉氏

全国で約7000件のコインパーキングを手掛ける日本システムバンク(福井市中央3-5-21)。(株)アイ・エム・ジェイと共同開発したスマートフォン用アプリ「SmooPA(スムーパー)」とのシステム連携により、クレジットカードや各種決済サービスと紐づけたアプリから駐車料金を「スマホ決済」することが可能となった。アプリから駐車した車の位置番号を入力し、金額を確認し、精算すると駐車場のロック板が解除されるという簡単な決済方法となっている。料金精算を車内や

専用アプリで駐車料金を
かんたん決済



SmooPAのアプリ画面

離れた場所からでも行うことができ、雨天時などの煩わしさも解消される。当初は競合他社と同様のクレジットカードリーダーが付いた精算機の導入を検討したが、かなりの高額なコストがかかるため、別の方法を検討した結果、今回のアプリを開発し導入することとなった。2016年より全国でキャッシュレス決済対応の駐車場運営を開始し、現在2000カ所(うち福井では60カ所)の駐車場で利用可能となっている。既存精算機を一部改良するだけでキャッシュレス対応が可能となっており、駐車



スマホ決済できるコインパーキング

場オーナー側からも高い評価を受けているとのことだ。駐車場の空き状況がアプリ上からリアルタイムでわかる点も大きな特徴。現在地を検索すると近くの提携駐車場がマップ上に全て表示され、空いている駐車場がひと目で分かる。さらに大手カーナビアプリとも連携して、カーナビから直接駐車場を検索できる。空いている駐車場へ利用者を誘導するために、アプリ上でクーポンを利用者向けに発行し還元することも可能と

「利用者のキャッシュレス化のニーズは高まっており、今は現金払いが主流のコインパーキングでも今後はキャッシュレス化が進むだろう」と語るのは野坂信嘉社長。このアプリを導入している利用者は18歳から75歳までと幅広い。同社の統計によると、利用者数は年々増加し利用者のリピート率も約75%と高い水準で推移している。今後の課題は「新規利用者への訴求」とし、駐車場内におけるのぼりやチラシなどでの告知など、利用者へのアピールを積極的に行っている。野坂社長は今後の事業展開について「駐車場内で自動車を『ロックする機能』と金額を『精算する機能』という2つの役割をスマートフォンアプリで実現することができた。今後は駐車場という用途に限らず、この機能を使った駐車場以外の新しいビジネスも模索している」と将来のキャッシュレス社会へ向けた「次の一手」を考えている。



キャッシュレス決済「待ったなし」! ~もっと加速する「脱現金」化~

「キャッシュレス決済」の普及が急速に進んでいる。政府は消費税率が10%に引き上げとなる今年10月に経済対策として「キャッシュレス・消費者還元事業」を行う。消費増税後の個人消費の冷え込みを抑えることや、東京オリンピック・パラリンピックなどに向けたインバウンド対策が狙いだが、キャッシュレス決済は事業者や消費者にどのような影響を及ぼすのか。キャッシュレス決済にいち早く対応した企業の取り組みを取材した。

キャッシュレス社会
への期待

店舗で物を買った時やサービスを受けた際に、クレジットカード・電子マネーにより現金のやりとりをしない方法で決済することを「キャッシュレス決済」と言う。方法は主に2つに大別される。1つは店頭にて専用端末などから決済する「接触型・非接触型」。そしてもう1つはスマートフォンなどのアプリでバーコードやQRコードを読み込んで決済する「コード型」だ。クレジットカードや銀行口座にスマートフォンを関連づけて支払うことが多く「スマホ決済」とも呼ばれる。事業者側では、小売店ならばレジでのやりとりがスムーズになる他、現金を安全に管理するコストや経理処理にかかる時間を低減できる。また消費者側は、現金を持ち運び手渡して支払うという手間が省けることなど、主に利便性の高さがメリットとして挙げられる。

キャッシュレスの決済イメージ



<出展> (一社) キャッシュレス推進協議会 キャッシュレス・ロードマップ2019より一部抜粋

政府はキャッシュレス決済の比率を2025年までに約4割に高めていく方針だ。これにより、消費者の利便性向上、少子高齢化による人手不足への対応、IT・データ活用による中小・小規模事業者の生産性向上などの諸問題の解決が見込まれている。中小企業や個人店舗で今後キャッシュレス決済の導入が必要となるが、果たしてキャッシュレス決済に対応することでのような効果があるのか。今回、既にキャッシュレス決済を導入した企業から話をうかがった。